



52:1 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナの出のエレミヤの娘であった。

52:2 彼は、すべてエホヤキムがしたように、主の目の前に悪を行なった。

52:3 エルサレムとユダにこのようなことが起こったのは、主の怒りによるもので、ついに主は彼らを御前から投げ捨てられたのである。そののち、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。

52:4 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカデザルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。

52:5 こうして町はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていたが、

52:6 第四の月の九日、町の中では、ききんがひどくなり、民衆に食物がなくなった。

52:7 そのとき、町が破られ、戦士たちはみな逃げて、夜のうちに、王の園のほとりにある二重の城壁の間の門の道から町を出た。カルデヤ人が町を包囲していたので、彼らはアラバへの道を行った。

52:8 カルデヤの軍勢が王のあとを追い、エリコの草原でゼデキヤに追いついたとき、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。

52:9 そこでカルデヤ人は王を捕え、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。

52:10 バビロンの王は、ゼデキヤの子らを彼の目の前で虐殺し、ユダのすべての首長たち

をリブラで虐殺した。

52:11 またゼデキヤの両眼をえぐり出し、彼を青銅の足かせにつないだ。バビロンの王は、彼をバビロンへ連れて行き、彼を死ぬ日まで獄屋に入れておいた。

ゼデキヤはユダヤ最後の王です。彼は神に従わなくても王としてやってゆけると思ったので、従わずに「主の目の前に悪を行った」のでしょう。しかしその結果は悲惨なものでした。またその悲惨さはバビロン王の残虐さも浮き彫りにします。まさに神を信じない者同士の有様です。

この出来事は神の預言が必ずなることを表しています。そしてその成就には理由があります。さらにはそれが明らかにされるということは、そこに神のメッセージがあるのです。

歴史を作るのは一人一人の生き方であり行動です。私たちがまたその歴史の中に生きていますが、それは神様の計画の中にあるということです。主の大きなご計画を知り、主に従い、個人としても主に従って、歴史の担い手になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

